

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

己を磨く

～挑戦し続ける技術者魂～

福岡県朝倉市の山中一敷多くの人々と大型の建設機械が忙しく行き交う現場があります。水資源機構が新たに建設を進める小石原川ダム建設事業です。この事業は、筑後川水系小石原川（既設の江川ダム上流）に多目的ダムである小石原川ダムを建設するとともに、同水系佐田川から小石原川（江川ダム貯水池）までの導水施設を建設するものです。新たな水道水源として、また流域を洪水から守るダムとして、地元などから大いに期待されています。この建設プロジェクトに果敢に挑戦し続ける一人の技術者に、今回はフォーカスします。



Profile

朝倉総合事業所 道路工事課

寺崎 智信 Tomonobu Terasaki

平成 10 年 4 月、水資源開発公団（現水資源機構）に入社。ダム、堰、湖沼開発、導水路の建設事業及び管理業務に携わる。平成 24 年 12 月より朝倉総合事業所在勤。

色鮮やかな業務経験

寺崎の社会人としての原点は川上ダム建設所(三重県)にある。ダム建設に伴って既存の道路を高所へと付け替える工事の監督を主に担った。「初めて担当した道路が完成したときの喜びは今も忘れられません。」と語るように、施設を完成させる喜びを覚えたのがこの現場だ。初めての異動先は利根川河口堰(千葉県・茨城県)で、以後しばらくは管理業務の現場が続く。通算 10 年にわたる管理業務を通じて、維持管理、防災、環境、地元調整など多くの仕事を経験した。現場も、ダム、堰、湖沼開発と様々であった。

しかし、平成 22 年 4 月長らく従事した管理の現場から、大山ダム建設事業(大分県)の最盛期の現場を担当することとなる。管理業務と建設事業では仕事といい、雰囲気とい



い、環境がまったく異なる。当初は苦勞も絶えなかったのでは？「いろいろな現場を経験したいですし、業務内容も新しいことに果敢に挑戦したいです。新しいことを覚えれば、技術力を向上させられるので。」と照れくさそうにはにかんだ。

新規建設プロジェクトの魅力

大山ダム以降は現在に至るまで建設事業の現場が続く。期間も管理業務とおよそ半々になった。ふと尋ねたくなる。寺崎にとって建設事業と管理業務、どちらの仕事が魅力的に映るのか？寺崎は迷わず答える。「いろいろな建設事業に携わりたいです。」その理由は何か？「プロジェクトのスケールの大きさも魅力の一つです。建設事業では多種多様なエンジニアたちと関わることになります。いろいろと見聞きすることにより、管理業務では経験できないほど数多くの技術やノウハウが得られるのが、建設事業に携わる醍醐味かもしれません。また、管理しやすい設備をイメージして、初めから造ることができることもですね。」実際に、現在携わっている小石原川ダム建設事業では、放流バルブ周辺を設計する際に、ダムが管理に移行したときを



見据え、定期的な点検や部品交換が必要となる場所へのアクセスがしやすいよう工夫をしているという。

与えられた重大任務

寺崎は、小石原川ダム建設工事の前半における最大の山場となる重要な工事を任された。それは転流工だ。ダム本体を築造するには小石原川の流れが支障となるため、一時的に川の流れを迂回させる必要がある。そのため水路トンネルの工事を監督するのが寺崎の役目だ。トンネルは掘ってみないとわからない、不確実な要素に満ちている。崩れやすい地山や湧水という自然が相手の辛い闘いだ。「率直に言って危険を感じることもありますし、安全を確保するために現場が止まったこともあります。工事で起こる一つ一つの難題について、皆で意見を交わしながら解決する過程に面白みを感じるんです。」と寺崎は言う。

転流工の完成が遅れば、ダムの本体工事には着手できない。これには相当なプレッシャーを感じるはずだ。たしかに万事うまく行く方が良いだろう。それで

も「何もないより何かあった方がやり甲斐を感じるし、自信が付くんです。」と言う。積極的いや向上心が強いと言うべきなのか、寺崎の前向きな技術者魂に目を見張る。



技術者魂を次の世代へ

いよいよ小石原川はその流れを変え、現場に本体工事の槌音が響こうとしている。若々しく見える寺崎であるが、入社して20年弱。今や機構の中堅を担う存在だ。後輩職員に伝えたいことを尋ねると、「今後、新規の建設プロジェクトに携わる機会は少ないかもしれません。仮にそうであっても、後輩たちを現場にたくさん連れて行ってやりたいです。実際に、見て、聴いて、やってみて、初めて自らの技術力になると思っているので。」と、寺崎は答えた。

建設事業と管理業務の別に関係なく、様々な現場がその技術力を必要としている。寺崎らが培った豊富な技術やノウハウは、若い世代へと伝えられ、水資源機構に熱い技術者魂を宿し続けるはずだ。



バスケットボールやサーフィンといった身体を動かすことを好む寺崎。2人目の子どもが6月に生まれたばかりとあって幸せ一杯だ。将来子どもたちが大きくなったら、一緒に身体を動かしたら嬉しいと語る笑顔が印象的であった。